

(Roelofs, 1875) *

1 ex., 柏木山～勝浦, 30-VII-2011. 飛島新記録.

45. チャバネキクイゾウムシ *Kojimazo lewisii* (Wollaston, 1873) *

1 ex., 高森山, 28-VII-2011. 飛島新記録.

46. ハマベキクイゾウムシ *Dryothribus mimeticus* Horn, 1873*

10 exs., オボゲの浜, 29-VII-2011; 2 exs., 柏木山～勝浦, 30-VII-2011. 飛島新記録.

47. アカネニセクチプトゾウムシ *Stenoscelodes hayashii* Konishi, 1962*

1 ex., 柏木山～勝浦, 30-VII-2011. 飛島新記録.

考察

今回の調査で1科25種が新たに追加され、飛島のゾウムシ相は5科47種となった。同島のゾウムシ相の特徴として、他地域ではそれほど個体数が多くない、コゲチャツツゾウムシがカシワやイタヤカエデで、チビコバンゾウムシがツリガネニンジンで多く見られたことが上げられる。

また、ブナ科植物がカシワとクリ程度しか見られず、株数も少ないためか、ブナ科利用の *Orchestes* 属のノミゾウムシ族や、*Nothomylocerus* 属、*Lepidepistomus* 属、*Lepidepistomodes* 属のクチプトゾウムシ族が見つかっていない。

さらに、タブノキ(クスノキ科)やツバキ、ヒサカキ(ツバキ科)などの常緑樹が多いにも関わらず、それらに依存する *Imachra* 属のノミゾウムシ族や、シギゾウムシ属 (*Curculio*)、マルゾウムシ属 (*Phaeopholus*) などのゾウムシ類も見つっていない。

これらのことを確認する上でも、5～6月、9月など、今回とは異なる時期の調査が今後は望まれる。

引用文献

Bates, H. W., 1873. On the geodephagous Coleoptera of Japan. Transactions of the Entomological Society of London, (1873): 219-322.

金井 茂・石里秋生, 1941. 山形県飛島の昆虫相 (第1報), 自然研究, (8): 23-24.

村井貞固, 1937. 飛島の生物相—飛島の昆虫相—, 荘内博物学会研究録, (2): 85-92.

小野精美, 1999. 飛島の甲虫6種. 山形昆虫同好会誌, (28): 16.

桜井俊一, 1988. 山形県の甲虫類 (VIII). 山形昆虫同好会誌, (13): 1-10.

新甲虫学会第1回大会特別座談会, 2011. 大林延夫(司会), 上野俊一・森本 桂・渡辺泰明(話題提供者), 日本の甲虫学研究史, さやばねニューシリーズ, (2): 1-17.

白畑孝太郎・黒沢良彦, 1972. 鳥海山・飛島の昆虫類. 山形県総合学術調査会(編), 鳥海山・飛島, pp. 218-262. 山形県.

山谷文仁, 1984. 山形・宮城のゾウムシ. 山形昆虫同好会誌, (13): 26-30.

(2012年4月23日受領, 2012年5月23日受理)



Tshernyshev, S.E., 2011. First record of *Cordelepherus pseudofaustus* Tshern., 2009 (Coleoptera, Malachiidae) in Japan. Euroasian Entomological Journal, 10(2): 136.

Tshernyshev, S.E., 2012. Two new species of soft-winged flower beetles of the genus *Kuatunia* Evers, 1945-48 (Coleoptera, Malachiidae) from China and northeastern Russia. Zootaxa, 3191: 56-64.

日本産ジョウカイモドキ科については、吉富・林(2011, 本誌(2): 18-24) がリストを纏めたが、その後上記の2本の論文が出ているので紹介する。

前者では *Cordelepherus pseudofaustus* Tshernyshev, 2009 が九州(熊本県山鹿市菊鹿町矢谷)から記録された。本種は極東ロシアから記載された種であり、日本から知られる同属のナガサキアオジョウカイモドキ *Cordelepherus xantholoma* (Kiesenwetter, 1874) とは大きさや触角の形状が異なるようだが、区別点は曖昧である。過去の文献と標本をもう一度見直す必要があるかも知れない。

後者は *Kuatunia* 属2種をロシアと中国からそれぞれ記載している。日本産2タクサ(2亜種)も含まれた検索表が付いていて有用である。本属に関してもまた、再検討が必要と考えられる。

(愛媛大学ミュージアム 吉富博之)